

Program

Program Notes

上原 彩子 (ピアノ)

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第14番 嬰ハ短調 Op.27-2 「月光」

第1楽章：アダージョ ソステヌート
第2楽章：アレグレット
第3楽章：プレスト アジタート

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第4番 変ホ長調 Op.7

第1楽章：アレグロ モルト エ コンブリオ
第2楽章：ラルゴ、
コン グラン エスプレッシオーネ
第3楽章：アレグロ
第4楽章：ロンド、
ポコ アレグレット エ グラツィオーソ

チャイコフスキー：「四季」 ~12の性格的描写 Op.37bis より

1月「炉端にて」
2月「謝肉祭」
6月「舟歌」
11月「トロイカ」
12月「クリスマス」

チャイコフスキー：ドゥムカ ハ短調 Op.59

リスト：愛の夢 第3番 S.541-3

リスト：メフィスト・ワルツ第1番 「村の居酒屋での踊り」 S.514

休 憩

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第14番 嬰ハ短調 Op.27-2 「月光」
ベートーヴェンのピアノソナタは、生涯を通して実験の連続でした。「悲愴」「月光」「熱情」の三曲セットがレコードを通して第二50年紀(1918-1968)に良く聴かれたものですが、50年を経て、又聴けるようになったのはうれしいことです。作品27の2曲は「二つの幻想曲風ソナタ」と名付けられていますが、二曲目の「月光」はソナタ形式による第1楽章を回避し、クライマックスと重心を第3楽章に置いて、重厚長大なソナタ形式で書いています。

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第4 変ホ長調 Op.7
ベートーヴェンがウィーンに進出した後の本格的なピアノソナタは、作品2の三曲セット(1~3番、1793~1795)と、続く4番(1796~1797)ですが、3楽章構成が常識であったハイドン・モーツァルトの伝統様式から脱却した4楽章構成となっていて、4番は演奏時間が30分と破格のスケールの曲です。

チャイコフスキー：「四季」~12の性格的描写 Op.37bis より
1875年末、チャイコフスキーはペテルブルクの出版社から月刊誌「ヌーヴェリスト」のために、毎月、その月に相応しいピアノ小品を書くようにとの注文を受けました。このロシアの人気雑誌の読者は、大小様々な町や人里離れた田舎に住む人たちまでもが対象で、この曲を通してチャイコフスキーの音楽はより広大なロシアに浸透していきました。また、各曲には、出版社によって選ばれた詩的な標題とロシアの詩人による詩が付けられ、より豊かで果てしない、それでいて身近で素朴な詩的世界が、芸術的な広がりとともに感じられます。

1月「炉端にて」
田舎の質素な佇まいの家。おばあさんが暖かい暖炉のそばで、物思いに耽っています。中間部の問いかけるようなフレーズは、エフゲニーオネーギンのアリア「来るべき日は、私に何をもたらしてくれるのか?」と似ています。不安げに自分自身に問いかけます。

2月「謝肉祭」
ロシア語で、マースレニツツァという、古来スラブ人の冬を送り春を迎える祭り結びついているお祭り。茶目っ気たっぷりに仮装した人々、お酒を飲んで益々陽気な人々、そんな人々で溢れかえり、華やかで色彩豊かな一曲です。

6月「舟歌」
夏の夜の水辺。やわらかな波間に浮かぶ少し気だるいメロディー。明るい曲ではないにも関わらず、開放感を感じます。